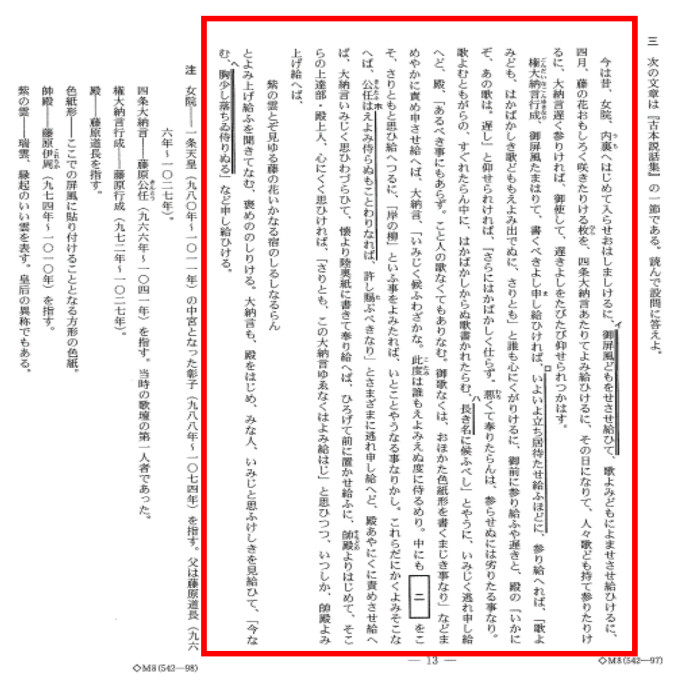
2022 ズバリ！的中　古文

北海道大学

「古本説話集」の本文がそのまま的中！

入試問題

前期日程
古文　三



三　次の文章は『古本説話集』の一節である。読んで設問に答えよ。

今は昔、女院、内裏へはじめて入らせおはしましけるに、イ御屏風どもをせさせ給ひて、歌よみどもによませさせ給ひけるに、四月、藤の花おもしろく咲きたりける枚を、四条大納言あたりてよみ給ひけるに、その日になりて、人々歌ども持て参りたりけるに、大納言遅く参りければ、御使して、遅きよしをたびたび仰せられつかはす。権大納言行成、御屏風たまはりて、書くべきよし申し給ひければ、ロいよいよ立ち居待たせ給ふほどに、参り給へれば、「歌よみども、はかばかしき歌どももえよみ出でぬに、さりとも」と誰も心にくがりけるに、御前に参り給ふや遅きと、殿の「いかにぞ、あの歌は。遅し」と仰せられければ、「さらにはかばかしく仕らず。悪しくて奉りたらんは、参らせぬには劣りたる事なり。歌よむともがらの、すぐれたらん中に、はかばかしからぬ歌書かれたらむ、ハ長き名に候ふべし」とやうに、いみじく逃れ申し給へど、殿、「あるべき事にもあらず。こと人の歌なくてもありなむ。御歌なくは、おほかた色紙形を書くまじき事なり」などまめやかに責め申させ給へば、大納言、「いみじく候ふわざかな。此度は誰もえよみえぬ度に侍るめり。中にも［ニ］をこそ、さりともと思ひ給へつるに、『岸の柳』といふ事をよみたれば、いとことやうなる事なりかし。これらだにかくよみそこなへば、ホ公任はえよみ侍らぬもことわりなれば、許し賜ぶべきなり」とさまざまに逃れ申し給へど、殿あやにくに責めさせ給へば、大納言いみじく思ひわづらひて、懐より陸奥紙に書きて奉り給へば、ひろげて前に置かせ給ふに、帥殿よりはじめて、そこらの上達部・殿上人、心にくく思ひければ、「さりとも、この大納言ゆゑなくはよみ給はじ」と思ひつつ、いつしか、帥殿よみ上げ給へば、

紫の雲とぞ見ゆる藤の花いかなる宿のしるしなるらん

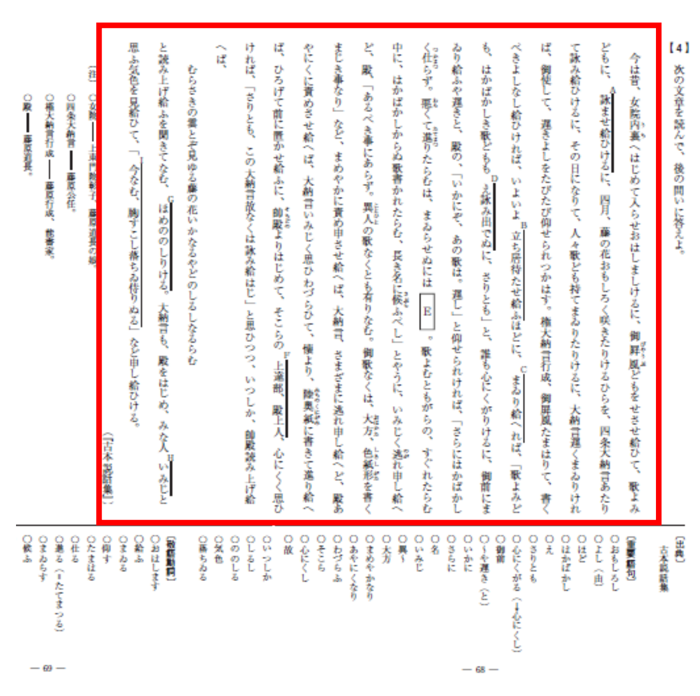
とよみ上げ給ふを聞きてなむ、褒めののしりける。大納言も、殿をはじめ、みな人、いみじと思ふけしきを見給ひて、「今なむ、へ胸少し落ちゐ侍りぬる」など申し給ひける。

注　女院――一条天皇（九八〇年～一〇一一年）の中宮となった彰子（九八八年～一〇七四年）を指す。父は藤原道長（九六六年～一〇二七年）。
四条大納言――藤原公任（九六六年～一〇四一年）を指す。当時の歌壇の第一人者であった。
権大納言行成――藤原行成（九七二年～一〇二七年）。
殿――藤原道長を指す。
色紙形――ここでの屏風に貼り付けることとなる方形の色紙。
帥殿――藤原伊周（九七四年～一〇一〇年）を指す。
紫の雲――瑞雲、縁起のいい雲を表す。皇后の異称でもある。

― 13 ―
◇M8(542―97)
◇M8(542―98)

河合塾

冬期講習　古文総合
補充問題【4】



【4】　次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

今は昔、女院内裏へはじめて入らせおはしましけるに、御屏風どもをせさせ給ひて、歌よみどもに、A詠ませ給ひけるに、四月、藤の花おもしろく咲きたりけるひらを、四条大納言あたりて詠み給ひけるに、その日になりて、人々歌ども持てまゐりたりけるに、大納言遅くまゐりければ、御使して、遅きよしをたびたび仰せられつかはす。権大納言行成、御屏風たまはりて、書くべきよしなし給ひければ、いよいよB立ち居待たせ給ふほどに、Cまゐり給へれば、「歌よみども、はかばかしき歌どももDえ詠み出でぬに、さりとも」と、誰も心にくがりけるに、御前にまゐり給ふや遅きと、殿の、「いかにぞ、あの歌は。遅し」と仰せられければ、「さらにはかばかしく仕らず。悪しくて進りたらむは、まゐらせぬには［E］。歌よむともがらの、すぐれたらむ中に、はかばかしからぬ歌書かれたらむ、長き名に候ふべし」とやうに、いみじく逃れ申し給へど、殿、「あるべき事にあらず。異人の歌なくとも有りなむ。御歌なくは、大方、色紙形を書くまじき事なり」など、まめやかに責め申させ給へば、大納言、さまざまに逃れ申し給へど、殿あやにくに責めさせ給へば、大納言いみじく思ひわづらひて、懐より、陸奥紙に書きて進り給へば、ひろげて前に置かせ給ふに、帥殿よりはじめて、そこらのF上達部、殿上人、心にくく思ひければ、「さりとも、この大納言故なくは詠み給はじ」と思ひつつ、いつしか、帥殿読み上げ給へば、

むらさきの雲とぞ見ゆる藤の花いかなるやどのしるしなるらむ

と読み上げ給ふを聞きてなむ、Gほめののしりける。大納言も、殿をはじめ、みな人Hいみじと思ふ気色を見給ひて、「I今なむ、胸すこし落ちゐ侍りぬる」など申し給ひける。

（『古本説話集』）

〔注〕○女院――上東門院彰子、藤原道長の娘。
○四条大納言――藤原公任。
○権大納言行成――藤原行成、能書家。
○殿――藤原道長。

【出典】
古本説話集

【重要語句】
○おもしろし
○よし（由）
○はかばかし
○はど
○え
○さりとも
○心にくがる（→心にくし）
○御前
○～や遅き（と）
○いかに
○さらに
○名
○いみじ
○異～
○大方
○まめやかなり
○あやにくなり
○わづらふ
○そこら
○心にくし
○故
○いつしか
○しるし
○ののしる
○気色
○落ちゐる

【敬語動詞】
○おはします
○給ふ
○まゐる
○仰す
○たまはる
○仕る
○進る（＝たてまつる）
○まゐらす
○候ふ

― 68 ―
― 69 ―

河合塾